



<絵本よんで！> No.1

本屋さんをのぞくと、絵本コーナーにカラフルで楽しそうな絵本がたくさん並んでいます。新しい絵本も次々と出版されますが、良い絵本はいつまでも愛され親しまれています。

通所事業の“ここすき！”でも、毎回子どもたちに絵本の読み聞かせをしています。子どもたちは絵本が大好きです。「次は、絵本を読むよ！」と声をかけると、遊んでいたおもちゃをさっと片付けて、集まってきます。真剣な表情で絵本をみつめ、時には大人が読むのと一緒に声に出したり、笑ったりしながら見えています。

家庭では、膝の上に子どもを乗せて、あるいは兄妹一緒に目の前に座らせ、目と目を合わせながら、読んであげられるのが良さですね。子どもにとっては、身近な存在である、大好きなお父さん、お母さんに声を出して読んでもらうことが、何よりうれしいことです。

絵本は、子ども一人ひとりに合わせた口調やスピードで読めるという良さがあります。

また、絵本からは、いろいろな言葉や身近な物の名前を覚えたり、自分の知らない世界を知ることができたり・・・と、学べることもたくさんあります。

でも、何よりも良いことは、子どもが身近な大人に読んでもらうことによって、気持ちが満たされることだと思います。以前、絵本の研修会で講師の先生が、「絵本というのは、絵本を通じて子どもたちに、あなたを愛しているよ、あなたのことが大好きだよと伝える道具ですよ」と話されていたのを聞き、そのことがとても印象に残っています。絵本を読み聞かせる際には、そのことを忘れないようにしています。少し大きくなると自分で読めるようになり、つい任せてしまいがちですが、10歳くらいまでは大人が読んであげることが大事だと言います。

「あなたのことが大好き」という思いで絵本を読んでもらった子どもたちは、心が満たされ、さらに絵本が好きになることでしょう。

たくさん絵本を読んであげてほしいと思いますが、様々な絵本の中から、子どもたちにどんな絵本を選んだらよいか、悩みますね。次回は、絵本を選ぶポイントについて、書きたいと思います。

(文 ここすき！プロジェクト保育士)

